

高等学校における教科指導の充実

地 理 歴 史 科

歴史的思考力の育成を目指した
世界史の課題追究学習

栃木県総合教育センター
平成20年3月

ま え が き

教育課程実施状況調査や学力に関する国際的な調査では、日本の高校生の学力の状況や学習に対する意識などが明らかにされ、文部科学省等からも学力向上のための様々な対策や提言がなされています。このような中で、平成19年4月には、小学校第6学年と中学校第3学年を対象に、国語科、算数・数学科の2教科で、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。10月末に公表された調査の結果から指摘された課題は、小・中学校においては喫緊の課題となっていますが、一朝一夕に解決することは難しい問題であると思われます。したがって、小・中学校における現在の課題は、とりもなおさず高等学校の課題としても引き継がれることになるでしょう。また、12月には、2006年のPISA調査の結果も公表され、科学的リテラシーをはじめ、数学的リテラシー、読解力を向上させるための対策が急がれる結果となりました。

各学校においても、教育活動の充実・改善に努めているところですが、特に教科指導においては、限られた時間の中で効果的な指導を展開して、生徒の学力向上を図ることは言うまでもありません。

これらのことを踏まえ、総合教育センターでは、「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」に取り組んでいます。この調査研究の目的は、基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を目指して、教科指導の在り方について研究し、その成果を普及することにより、学力の向上に資することにあります。

今年度は、国語科、地理歴史科、数学科、理科において、教育課程実施状況調査の調査結果等から指摘されている課題を踏まえ、その解決を図るための授業改善の方策等について研究に取り組みました。研究の成果をまとめた本冊子を、各学校の実情に応じて有効に御活用いただければ幸いです。

最後に、今年度の調査研究を進めるにあたり、御協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成20年3月

栃木県総合教育センター所長

五味田 謙 一

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
事例1 国家が繁栄した理由について考察させる授業・・・・・・・・	2
事例2 歴史的事象について、絵画資料の読み解きを通して考察させる授業・・・	18
事例3 歴史的事象について、その理由・背景に着目して考察させる授業・・・	32
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41

歴史的思考力の育成を目指した世界史の課題追究学習

はじめに

現行の学習指導要領においては、生徒の世界史学習に対する関心・意欲を高め、歴史的思考力を育成するために、「主題を設定し追究する学習」が内容に位置付けられ、その充実がうたわれている。しかし、平成17年度高等学校教育課程実施状況調査（国立教育政策研究所）の教師質問紙調査の結果では、「課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか」という質問に対し、否定的な回答が87%であり、前回調査時（平成15年度）の81%に引き続き、非常に多くなっている。生徒質問紙調査の結果でも、「世界史の授業でテーマを設けて調べる学習は好きですか」という質問に対し、「テーマを設けて調べる学習をまったく又はほとんど行っていない」という回答が60.3%で最も多く、「好きだ」という回答は8.2%と少ない。討論したり、レポートにまとめたり、発表したりすることが好きだと回答した割合も同様に低かった。

このようなことから、本調査研究では、世界史における「主題を設定し追究する学習」（以下、「課題追究学習」とする）の工夫について取り組んだ。

学習指導要領では、課題追究学習は、導入部や終末部に位置付けられている。導入部でのねらいは、生徒の関心や意欲を高めることであり、終末部でのねらいは、それまでの学習成果を応用し歴史認識を確かにすることである。本研究では、歴史的思考力の育成のためには、日常の授業の中で継続的・反復的に課題追究学習を行うことが必要であると考え、導入部・終末部に限定せずに授業実践を行うこととした。

なお、本研究では、歴史的思考力のうち、歴史的な事象を多面的・多角的に考察する力、歴史的な事象を歴史的な文脈の中で理解する力、歴史的な事象の意義について考察する力を育成することを主なねらいとした。また、各実践の結果として、歴史への興味・関心が高まるとともに、歴史に対する理解が深まり、知識の定着が促されることも期待した。

各事例の実践内容は次のとおりである。

事例1 国家が繁栄した理由について考察させる授業

「オスマン帝国の成立と発展」と「オランダの独立と繁栄」を題材とし、その繁栄の理由を、既習事項をもとに考察させることにより、歴史的な事象を多面的・多角的に考察する力や時代の特徴を的確に把握する力の育成を目指した。

事例2 歴史的な事象について、絵画資料の読み解きを通して考察させる授業

近代ヨーロッパの絵画資料を読み取り解釈することを通して、歴史的な事象を歴史的な文脈の中で理解する力や、歴史的な事象の意義について考察する力の育成を目指した。

事例3 歴史的な事象について、その理由・背景に着目して考察させる授業

歴史的な事象の理由や背景についての問いかけを中心に授業を組み立て、考察や仮説を記述させる学習活動を反復して行うことにより、歴史を原因と結果のつながりとして捉え、歴史的な事象を歴史的な文脈の中で理解する力の育成を目指した。

＜研究協力委員＞

栃木県立宇都宮東高等学校	教 諭	宇都木 修 一
栃木県立小山南高等学校	教 諭	赤 坂 賢 一
栃木県立烏山女子高等学校	教 諭	大 森 淳 子

＜研究委員＞

栃木県総合教育センター 研修部	指導主事	阿久津 如 子
-----------------	------	---------

事例1 国家が繁栄した理由について考察させる授業

1 ねらい

世界史では多くの国が学習の対象となるが、繁栄した国家には、それぞれ独自性があると同時に、何らかの共通性や普遍性がある。この事例では、国家が繁栄した理由を考えさせることにより、歴史的事象を多面的・多角的に考察する力や、時代の特徴を的確に把握する力を身に付けさせたいと考えた。また、様々な視点で他国と比較することにより、歴史的事象の理解をより深めることもできると考えた。さらに、視野を広げ、国家や社会の在り方について考えるきっかけにもなればよいと考えた。

この事例では、題材として「オスマン帝国の成立と発展」と「オランダの独立と繁栄」を取り上げ、これまでの学習で得てきた知識をもとに、両国が繁栄した理由を考察させ、自由に仮説を立てさせた。さらに、班別に仮説をまとめ、発表する活動や、他の班への反論、仮説の検証といった活動を通して、考察を深めさせた。なお、授業実践は第2学年を対象に行った。

2 指導計画・評価計画と授業実践

実践1

(1) 単元名 オスマン帝国の成立と発展

(2) 単元の目標

①オスマン帝国が繁栄した理由について、多面的・多角的に考察させる。

②オスマン帝国の成立と発展の過程について理解させる。

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用 of 技能・表現	知識・理解
オスマン帝国の繁栄理由について、意欲的に仮説を立てようとしている。	オスマン帝国の繁栄理由について多角的・多面的に考察している。	適切な資料を活用して、オスマン帝国が繁栄した理由についての仮説を検証し、自分の考えを表現している。	オスマン帝国の成立と発展について理解し、基本的な知識を身に付けている。

(4) 単元の指導計画

1 時間目 オスマン帝国の繁栄の理由について各自が仮説を立て、班ごとにまとめる。

2 時間目 各班の仮説を各自が評価した後、班ごとに仮説を割り当てて検証する。

3 時間目 班ごとに検証結果を発表し、史実を確認した後、各自でオスマン帝国繁栄の理由をまとめる。

(5)授業展開

《1時間目》

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画 〔評価方法〕
導入	10分	・「トルコ行進曲」「イエニチェリ軍楽隊の行進曲」を聴く。 ・18世紀末のヨーロッパ人はトルコ人に対してどんなイメージを抱いていたかを考える。	・多様なイメージが生み出されたのはなぜかを考えさせる。	
展開	15分	・オスマン帝国の成立と発展過程についてワークシート1を見ながら講義を聞く。 ・地形・国境の入った現在の地図と最大版図の地図を見て、オスマン帝国の大きさを確認する。また、帝国には多くの民族が含まれていたことを理解する。	・現在の地図と最大版図の地図で、オスマン帝国の大きさを確認させる。また、オスマン帝国が多民族国家であったことに気付かせる。	・オスマン帝国の成立と発展について基本的な知識を身に付けている。 【知識・理解】 〔観察、テスト〕
	25分	・オスマン帝国が広大な領土を維持しつつ、長く繁栄したのはなぜか、自分なりに仮説を立ててワークシート2に記入する。また、その仮説を立てた理由や根拠もあわせて記入する。 ・班ごとに話し合っ、班としての仮説を絞り、ワークシート3に「仮説」と「仮説を立てた理由、根拠」をまとめる。	・できるだけ多くの仮説を立てさせ、ワークシート2に記入させる。その際、今まで学習した帝国や王国などで学んだ支配の仕組みを参考にさせる。ただし、オスマン帝国については教科書や資料集の該当箇所は見ないように指示する。 ・座席順で班を作らせる。	・既習事項をもとに説得力のある仮説を立てている。 【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 〔ワークシート2〕

ワークシート1

年 表

- 1299年 小アジア西北部にオスマン帝国建設 族長：オスマン＝ベイ（オスマン1世）
 1326年 オルハン、ブルサを都とする。
 1366年 ムラト1世、バルカン半島に進出し、アドリアノーブル（現在のエディルネ）に遷都
 1396年 バヤジット1世、バルカン諸国と仏独の連合軍を撃破（ニコポリスの戦い）

~~~~~（中 略）~~~~~

- 1538年 スレイマン1世、スペイン・ヴェネツィアの連合艦隊を破る。（プレヴェザの海戦）  
 1571年 セリム2世、スペインに敗北（レパントの海戦）

地図 **オスマン帝国の最大領域（16世紀）**（省略） 地図 **現代の地中海世界**（省略）

## ワークシート2

2年（ ）組（ ）班 氏名（ ）

オスマン帝国(1299年～1922年) が長く繁栄し、広大な領土を維持できたのはなぜか？  
 その理由を考えて、自分なりの仮説を立ててみよう。

その際、今まで学習した各地域のいろいろな時代の王国・帝国・王朝などを参考に考えてみよう。また、政治的要因、社会経済的要因、宗教的要因、文化的要因、地理的要因など様々な角度から考えてみよう。

|   | 仮 説           | 左記の仮説を立てた理由または根拠                                       | 評価 |
|---|---------------|--------------------------------------------------------|----|
| 例 | 有能な指導者が多く現れた。 | ローマ帝国の五賢帝時代や清王朝の康熙帝、雍正帝、乾隆帝のように有能な指導者が続いた国は長く繁栄しているから。 |    |
| 1 |               |                                                        |    |
| 2 |               |                                                        |    |
| 3 |               |                                                        |    |

### ワークシート3

2年（ ）組（ ）班 氏名（ ）

オスマン帝国(1299年～1922年) が長く繁栄し、広大な領土を維持できたのはなぜか？

その理由を考えて、班ごとに仮説をまとめよう。

その際、今まで学習した各地域のいろいろな時代の王国・帝国・王朝などを参考に考えてみよう。また、政治的要因、社会経済的要因、宗教的要因、文化的要因、地理的要因など様々な角度から考えてみよう。

|   | 仮 説 | 左記の仮説を立てた理由または根拠 | 評価 |
|---|-----|------------------|----|
| 1 |     |                  |    |
| 2 |     |                  |    |
| 3 |     |                  |    |

### 《2時間目》

| 段階 | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                    | 指導上の留意点                                                                                           | 評価計画<br>〔評価方法〕                                   |
|----|-----|------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 展開 | 10分 | ・ <b>ワークシート4</b> の仮説を見て、各仮説を自分なりにA～Cで評価する。                                   | ・ 前時の班ごとの仮説を分類し、 <b>ワークシート4</b> にまとめて配付する。<br>・ 評価のポイントをよく説明する。                                   |                                                  |
|    | 15分 | ・ 各仮説を支持するかどうかを各自考える。支持しない場合や、支持しない部分がある場合は、その理由を <b>ワークシート4</b> に記入する。      | ・ 仮説に反論や異論があるか、各自で考えておくことで、次の検証作業がしやすくなる。                                                         |                                                  |
|    | 25分 | ・ 班ごとに、割り当てられた仮説が史実に合っているかどうかを、資料集や配付された参考文献などをもとに検証し、 <b>ワークシート4</b> に記入する。 | ・ 班ごとに調べる仮説を割り当てる。<br>・ 参考文献を配付し、班内で読む資料を分担するなど効率よく検証作業を進めるよう指導する。また各自が考えた仮説への反論もお互いに参考にするよう指示する。 | ・ 資料を活用して適切に検証している。<br>【資料活用の技能・表現】<br>〔ワークシート4〕 |



## ワークシート4

※実際のシートはB 4 横長

| 仮 説                               | 左記の仮説を立てた理由または根拠                                                              | 評価 | あなたはこの仮説を支持しますか？（○△×で記入）<br>支持しない場合、その理由 | 史実に合っているか？<br>違う場合、実際はどうか？ |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------|----------------------------|
| 1<br>・近隣国と<br>友好関係<br>を結んで<br>いた。 | ・対立すれば戦争が起<br>き、そのためにいろ<br>いろな費用を使わな<br>ければならないた<br>め。<br>・清とロシア、・・・<br>(以下略) | ↑  |                                          |                            |
| 2<br>・危機管理<br>能力が・・・<br>(以下略)     |                                                                               |    |                                          |                            |

仮説としての評価基準（A～Cで記入）

A：過去に学んだ知識に基づいており、説得力がある。

B：過去に学んだ知識に基づいているが、説得力にやや欠ける。

C：過去に学んだ知識に基づいていない。内容に誤りがある。

（ここで省略した生徒の仮説は、7 ページに示した。）

## 《3時間目》

| 段 階         | 時 間     | 学習内容・学習活動                                                                                                                   | 指導上の留意点                                               | 評価計画<br>〔評価方法〕                                                        |
|-------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 展<br>開      | 40<br>分 | ・ 班ごとに、検証した仮説<br>が正しかったかどうか、<br>また史実はどうであった<br>かについて、班の代表が<br>発表する。<br>・ 発表や教師の説明を聴き、<br><b>ワークシート4</b> に史実や<br>ポイントを書き加える。 | ・ 発表内容に補足・訂正を加<br>えていく。<br><br>・ ポイントをしっかりと記入<br>させる。 | ・ 内容が適切で、分かりやすく<br>発表している。<br>【資料活用の技能・表現】<br>【知識・理解】<br>〔発表、ワークシート4〕 |
| ま<br>と<br>め | 10<br>分 | ・ オスマン帝国の繁栄の理<br>由について5行以上でま<br>とめる。                                                                                        |                                                       | ・ 正しい知識が身に付いてい<br>る。<br>【知識・理解】<br>〔まとめの記述内容〕                         |

# (6)実践の概要

今回の実践では、生徒が立てた仮説を、以下のように教師が事前におおまかに分類し、**ワークシート4**として配付した。生徒の立てた仮説とその理由・根拠を次に挙げる。

| NO | 仮 説                                                                                    | 左記の仮説を立てた理由または根拠                                                                                                                                                                                            |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | ・近隣国と友好関係を結んでいた。                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・対立すれば戦争が起き、そのためにいろいろな費用を使わなければならないため。</li> <li>・清とロシア、明と李氏朝鮮のように、近隣国との関係をよくしていた国は長く続いているから。</li> </ul>                                                              |
| 2  | ・危機管理能力が高かった。                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アケメネス朝に見られる「王の目・王の耳」のように、いち早く反乱などについて知ることができたから。</li> </ul>                                                                                                         |
| 3  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・税制がよくできていた。</li> <li>・あまり重税を課さなかった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・清王朝が行った地丁銀制のように、国民が反乱を起こさないように税の負担を少なくしたから。</li> <li>・ローマ帝国も明も清も良い税制で繁栄したため。</li> <li>・農民などを苦しめるような税制があると、農民が困窮してしまい、国家の基礎が崩れるから。</li> </ul>                        |
| 4  | ・皇帝以外の強力な実力者が乱立していなかった。                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパでは、教皇との争いで国力を落とした国もあったから。</li> </ul>                                                                                                                           |
| 5  | ・広大な領土の支配制度が優れていた。                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代オリエントやモンゴルなど広大な領地を保持していた国では、駅伝制が発達したから。</li> <li>・清王朝は、藩部を統治するために理藩院を置いたので、遠隔地の問題にも対処しやすかったから。</li> </ul>                                                         |
| 6  | ・商業が盛んで経済面で安定していた。                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビザンツ帝国を倒したことにより、世界最大の貿易都市であるコンスタンティノープルを手に入れたため、人々が資源・食物に困らなくなったから。(人々が資源や食物に困らなくなり、反乱が少なかった。)</li> </ul>                                                           |
| 7  | ・土地がよく、農耕に適し、食料が十分にあった。                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の湖広地方のように大規模な穀倉地帯があった国は国民が増え、戦力アップにつながっているから。</li> </ul>                                                                                                          |
| 8  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教が統一されていた。</li> <li>・1つの宗教を強いた。</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの宗教を信仰することによって、宗教間の自国での争いがなく、内乱がないから。</li> <li>・厳しい教えのイスラーム教徒は、他の宗教よりも一枚岩になれるから。</li> <li>・秦の始皇帝の焚書・坑儒のように、思想を統一したから。</li> </ul>                                  |
| 9  | ・異民族を有効に支配した。                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・清の満漢併用制のように、他民族でも良いところを取り入れたから。</li> </ul>                                                                                                                          |
| 10 | ・領土の位置がよかった。                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外敵の侵入を防げる場所にできた国や都は長く続いているから。</li> <li>・アジア・アフリカ・ヨーロッパ地域の中心地にあったから。</li> <li>・ユーラシア大陸の東西を結ぶ地域を領土とし、貿易の利益が大きかったから。</li> <li>・気候がよく、食物不足に困らなく、住み心地がよかったから。</li> </ul> |

この一覧表で、仮説として説得力があるかどうか、まず個人で評価させ、支持するかどうかを考えさせた。そして、支持しない場合はその理由も記入させ、班ごとの検証の際に参考にさせた。その後、これらの仮説を各班に割り当て、教科書、資料集、教師の準備した参考文献をもとに検証させた。検証した結果について、班ごとに発表させ、考え方に誤りのあるもの、あいまいなもの等については、教師が適宜、訂正や補足説明を加えた。

生徒はおおむね、古代オリエントやローマ帝国、中国などで学んだ世界帝国の統治システムを根拠に挙げ、仮説を立てることができた。また、政治的要因、経済的要因、宗教的要因、地理的要因など複数の角度から考えることもできた。

しかし、イスラーム教に対する厳格なイメージや、宗教を統一することが繁栄をもたらすという考えが生徒の中には根強く、他宗教に対して寛容であったことを見誤っていた者が多かった。そこで、異教徒を弾圧するような政策は繁栄に結びつかないことを説明した。また、近代以降の植民地とドイツの東方植民の違いなど、普段の授業で見落としがちな歴史認識の誤りを指摘することができた。

最後に、オスマン帝国の繁栄の理由について論述させ、まとめとした。次に挙げるのは、ある生徒がまとめたものである。

宗教に対して寛容だったため、比較的自由に宗教を崇拝することができた。またスレイマン1世のような帝国の制度の整備に力を注ぐようなしっかりとした「立法者」と呼ばれるスルタンがいたため、政治的な統治が上手くできていたとも考えられる。また、官僚制が無能なスルタンを支えたため長く続いた。危機管理の面ではイエニチェリと呼ばれる常備歩兵軍団がいることで、近隣諸国の脅威となったため、あまり外国からの攻撃を受けなかったと考えられる。

ほとんどの生徒が帝国の繁栄の理由を正しく記述することができたが、記述内容には偏りがあり、重要事項を不足なく挙げているものはなかった。「自分が調べたところはよく分かったが、それ以外の部分の知識が欠けている」といった不安を感じた生徒もいたことから、何らかの対応が必要である。

## 実践2

(1) 単元名 オランダの独立と繁栄

(2) 単元の目標

- ① 17世紀にオランダが繁栄した理由について、多面的・多角的に考察させる。
- ② オランダと日本の関係について理解させる。

(3) 単元の評価規準

| 関心・意欲・態度                         | 思考・判断                           | 資料活用の技能・表現                                      | 知識・理解                             |
|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------|-----------------------------------|
| オランダの繁栄の理由について、意欲的に仮説を立てようとしている。 | オランダが繁栄した理由について、多面的・多角的に考察している。 | 適切な資料を活用して、オランダが繁栄した理由についての仮説を検証し、自分の考えを表現している。 | オランダの独立と繁栄について理解し、基本的な知識を身に付けている。 |

(4)単元の指導計画

- 1 時間目 17世紀にオランダが繁栄した理由について、各自仮説を立て、班ごとにまとめる。  
 2 時間目 仮説を評価し合い、班ごとに検証する。  
 3 時間目 検証結果を発表し合い、史実を確認した後、オランダが繁栄した要因をまとめる。

(5)授業展開

《1 時間目》

| 段階 | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                                                                                                      | 指導上の留意点                                                                                                                                       | 評価計画<br>〔評価方法〕                                                                                                                    |
|----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>佐野市の龍江院所蔵のエラスムス像を見て、リーフデ号の船尾についていた像が栃木県にある理由に気付く。</li> <li>日光東照宮にあるオランダ灯籠を見て、オランダから贈られた灯籠が東照宮にある理由に気付く。</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li><b>ワークシート1</b>の年表中で、関連のあるところに下線を引かせていく。</li> <li>この時代の日本の歴史を思い出させるとともに、オランダとの関係の深さに気付かせる。</li> </ul>   |                                                                                                                                   |
| 展開 | 15分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>オランダの独立と繁栄の過程について講義を聞き、<b>ワークシート1</b>に必要事項を記入する。</li> <li>オランダが日本に来航したのは、オランダ建国期のことであったことに気付く。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>河川の入ったヨーロッパの白地図と世界地図を見せて、オランダの位置や国土の大きさを確認させる。</li> </ul>                                              |                                                                                                                                   |
| 開  | 25分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>17世紀にオランダが繁栄した理由について、自分なりに仮説を立て、<b>ワークシート2</b>に記入する。</li> <li>班ごとに話し合っ、班としての仮説を1つに絞り、<b>ワークシート3</b>に「仮説」と「仮説を立てた理由、根拠」をまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ多くの仮説を立てさせる。その際、今までに学習したことを参考にさせる。ただし、教科書・資料集の該当箇所は見ないように指示する。</li> <li>修学旅行と同じ班編成とする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項をもとに説得力のある仮説を立てている。</li> <li>【関心・意欲・態度】</li> <li>【思考・判断】</li> <li>〔ワークシート2〕</li> </ul> |

## ワークシート 1

| オランダ                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 日 本                                                                                                      | その他                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| <p>オランダ独立戦争（1568～1609）</p> <p>〔原因〕・カトリックの強制→カルヴァン派の反感<br/>・重税（ゴイセン）</p> <p>〔経過〕ネーデルラント17州の反乱開始（1568）<br/>フェリペ2世の懐柔策で南部10州脱落<br/>北部7州は<u>ユトレヒト同盟</u>結成（1579）<br/>中心：（                      州）</p> <p>独立宣言（1581）<br/>正式名称「ネーデルラント連邦共和国」<br/>スペインと休戦和約（1609）</p> <p>東インド会社設立（1602）拠点：ジャワ島バタヴィア</p> | <p>1549 ザビエル、カトリックを伝える</p> <p>1575 長篠合戦</p> <p>1587 秀吉、バテレン追放令</p> <p>（省 略）</p> <p>1600 オランダ船リーフデ号漂着</p> | <p>1571 スペイン、フィリピンにマニラ建設</p> <p>（以下略）</p> |

## ワークシート 2

2年 ( ) 組 氏名 ( )

スペインから独立したオランダが、17世紀前半に繁栄した理由を考えて、自分なりの仮説を立ててみよう。

その際、今まで学習した各地域のいろいろな時代の様々な国を参考に考えてみよう。また、政治的要因、社会経済的要因、宗教的要因、文化的要因、地理的要因など様々な角度から考えてみよう。

|   |                |                                                                 |    |
|---|----------------|-----------------------------------------------------------------|----|
|   | 仮 説            | 左記の仮説を立てた <u>具体的</u> 理由または根拠<br>歴史上の前例など                        | 評価 |
| 例 | 香辛料をアジアから運んだから | 中世のイタリア商人が東方貿易で香辛料を扱って豊かになり、16世紀にはポルトガルがインド航路を開拓し、香辛料で豊かになったから。 |    |
| 1 |                |                                                                 |    |
| 2 |                |                                                                 |    |
|   |                |                                                                 |    |

### ワークシート3

( ) 班 2年 ( ) 組 氏名 ( . . . )  
各人の考えた仮説をグループのものとして一つにまとめあげよう。

|                      |                                          |
|----------------------|------------------------------------------|
| 班の仮説                 | 左記の仮説を立てた <u>具体的</u> 理由または根拠<br>歴史上の前例など |
|                      |                                          |
| 評 価：信憑性があるか・説得力があるか等 | 5      4      3      2      1            |

### 《2時間目》

| 段<br>階 | 時<br>間  | 学習内容・学習活動                                                                                 | 指導上の留意点                                                                                 | 評価計画<br>〔評価方法〕                                      |
|--------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 展      | 20<br>分 | ・ <b>ワークシート4</b> を見て、班ごとに、他の班の仮説に対する反論や指摘を考え、 <b>ワークシート5</b> に記入するとともに、黒板に書く。             | ・ 班ごとの仮説を記入した <b>ワークシート4</b> を配付する。                                                     | ・ 適切な反論や指摘をしている。<br>【思考・判断】<br>〔ワークシート5〕            |
| 開      | 25<br>分 | ・ 自分の班の仮説が史実にあっているかどうかについて、板書された他班からの反論・指摘を踏まえつつ、資料集や参考文献などをもとに検証し、 <b>ワークシート5</b> に記入する。 | ・ 黒板に書かれた、自分の班の仮説に対する反論や指摘を意識して、検証作業を行うように指導する。<br>・ 班内で読む資料を分担するなど、効率よく検証作業を進めるよう指導する。 | ・ 適切な資料を活用し、正しく検証している。<br>【資料活用の技能・表現】<br>〔ワークシート5〕 |

#### ワークシート4

( ) 班 2年( ) 組 氏名( . . . )  
各班の仮説

|        | 仮説                                             | 左記の仮説を立てた <u>具体的理由</u> または根拠、<br>歴史上の前例など                                                     | 調べた結果（各班の発表を<br>聞き、事実とされていること<br>を記入しよう） |
|--------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 1<br>班 | ・オランダだけが日本<br>と貿易をした。また、<br>宗教改革でゴイセン<br>になった。 | ・当時、強大だったスペインと競争せず<br>に貿易の富を独占できた。その資金を<br>もとにして国力を強めた。カルヴァン<br>派では結果としての営利・蓄財を肯定<br>し、国が富んだ。 |                                          |
| 2<br>班 |                                                | (以下略)                                                                                         |                                          |

#### ワークシート5

( ) 班 2年4組 氏名( . . . )

○自分の班以外の班の仮説をよく読んで、信憑性のないところはないか、しっかりとした根拠に基づいているか、反論する余地はないか、考えよう。

( ) 班に対して 指摘したい点・反論したい点

( ) 班に対して 指摘したい点・反論したい点

○自分の班の仮説が正しいかどうか調べよう。

各班ごとに反論を視野に入れつつ、自分の班の仮説を資料を見ながら正しいかどうか検証していこう。

( ) 班からの指摘・反論

( ) 班からの指摘・反論

仮説が正しい→○ 部分的に合っていた→△ 間違っていた→× ( )

詳細 (事実はどうであったか)

参考にした資料

補足 (仮説とは関係なく、発見したこと)

### 《3時間目》

| 段階  | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                                                                         | 指導上の留意点                                                                                                                          | 評価計画<br>〔評価方法〕                                                                                                |
|-----|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 展開  | 40分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班ごとに、自分の班の仮説が正しかったかどうか、また史実はどうであったかを発表する。</li> <li>・ 発表や教師の説明を聴き、<b>ワークシート4</b>に史実やポイントを記入する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各班の検証した結果を簡潔に発表させる。</li> <li>・ 発表内容に補足・訂正を加えていく。</li> <li>・ ポイントをしっかりと記入させる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正しい内容で、わかりやすく発表している。</li> </ul> <p>【資料活用の技能・表現】<br/>〔ワークシート5、発表〕</p> |
| まとめ | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 17世紀にオランダが繁栄した理由について5行以上でまとめる。</li> </ul>                                                                |                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正しい知識が身に付いている。</li> </ul> <p>【知識・理解】<br/>〔まとめの記述内容〕</p>              |

### (6) 実践の概要

**実践2**では、**実践1**の反省から、以下の点で改善を加えた。

- ・ 教師が仮説を分類して、検証する仮説を班に割り当てることをやめ、自分の班の仮説を自分たちで検証させるようにした。それにより、班別学習での生徒の学習意欲を高めることを目指した。
- ・ より真剣に検証に取り組ませ、考察を深めさせるため、他の班から、仮説に対する反論や指摘を挙げさせた。
- ・ 班の話し合いを活発にするため、班編制を修学旅行の班とした。

検証結果の発表、教師の補足説明、論述によるまとめについては、**実践1**と同様に行った。以下に、いくつかの班の、仮説、他班からの指摘、検証結果を挙げる。表の見方は次の通りである。

- I 仮説
- II 仮説を立てた具体的理由または根拠、歴史上の前例など
- III 他班からの指摘・反論
- IV 調べた結果

[ ] 内は自己評価：仮説が正しかった→○ 部分的に合っていた→△ 間違っていた→×



### 1 班

|                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I ・オランダだけが日本と貿易をした。また、宗教改革でゴイセンになった。                                                                                      |
| II ・当時、強大だったスペインと競争せずに貿易の富を独占できた。その資金をもとにして国力を強めた。カルヴァン派では結果としての営利・蓄財を肯定し、国が富んだ。                                          |
| III オランダが日本と貿易をしたことで多くの富を得ることは可能だったのか。(4 班)                                                                               |
| IV 〔○〕 オランダが日本を貿易相手に選んだ理由は豊かに産する貴金属にあった。17世紀には数ある商館の中でもトップクラスの収益を上げた。さらにオランダは平戸のオランダ商館を軍事的拠点としていた。オランダが日本と貿易するメリットは大きかった。 |

### 2 班

|                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I ・毛織物工業が成長した。 ・商業革命 ・農場領主制 ・エルベ川                                                                                                                  |
| II ・南北ヨーロッパ商業の中継地として毛織物工業が成長し、経済が豊かになった。大航海時代の到来によりヨーロッパの遠隔地貿易の中心が地中海から大西洋に臨む国々に移動した。<br>・輸出用穀物を生産する直営地経営を行っていた。<br>・国内にエルベ川が流れていたため、土壌生産が活発だったから。 |
| III ・エルベ川はオランダを通っていない。(3・4・7・9 班)<br>・北海に面するオランダは南北ヨーロッパ商業の中継地にはなりえないのではないか。(3 班)<br>・穀物の輸出は東欧から西欧へである。また直営地経営は東欧である。(3 班)                         |
| IV 〔△〕 商業革命は正しかったが、農場領主制は東欧で行われていたため間違い。オランダを通っているのは、エルベ川ではなく、ライン川。                                                                                |

### 3 班

|                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I ・北海に面している ・近隣国との関係 ・オランダの宗教への体質 ・州制                                                                                                                                                                  |
| II ・海に面しているため、アジアへの進出が可能になり、航海の面で有利であったから。<br>・北海を挟んだイギリスからの影響など、文化の享受の面で地理的に恵まれていた。<br>・カルヴァン派（ゴイセン）は腐敗していたカトリックの影響下になかった。教皇の干渉がなかったため、自由な体制がとれたから。<br>・17州に分立していたため、一元的支配に比べて各州の状況に即した柔軟な政治体制をとれたから。 |
| III ・教皇の干渉はあったのでは。(5 班)<br>・17州に分立していたため柔軟な政治体制をとれたというのは本当だろうか。(2 班)                                                                                                                                   |
| IV 〔△〕 アジアに進出した事実があり、それが可能である航海術を有することは大航海時代において有利であることこの上ない。文化的にはオランダの方がイギリスより進んでいた面も多く、どちらかというと逆である。しかし、イギリスの軍事的援助はあった。17州は独自の政治体制をとったため、柔軟というよりはまとまりのない政治が行われた。                                     |

### 4 班

|                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I ・貿易が発達していた ・国内の商業の発達                                                                                                                                             |
| II ・季節風貿易で絹や香辛料を手に入れ、優れた航海技術により、安定した貿易ができた。<br>・カルヴァン派の信仰により、貯蓄や倹約が奨励されたため、商工業が発達したから。                                                                             |
| III なし                                                                                                                                                             |
| IV 〔△〕 バルト海での中継貿易で発展した。一方、東インド会社が目指していた貿易は戦争と紙一重であった。必ずしも安定した貿易とはいえない。カルヴァン派が唯一の公認された教会ではあったが、思想・言論・宗教については他国に比べ、自由であった。アムステルダムは金融と貿易の中心で、取引所や振替銀行、保険業務なども整備されていた。 |

生徒はおおむね既習事項をもとに根拠を挙げ、仮説を立てることができた。また、政治、経済、宗教、立地など、多角的に考えることもできた。

仮説の内容をみると、**実践 1**「オスマン帝国の成立と発展」と同じように、宗教の統一を繁栄の要因として仮説に挙げ、特にカルヴァン派の教義に注目した班が目立った。しかし、宗教の統一を「異教徒を排斥するもの」ととらえているとしたら、適切な根拠とはいえない。そこで、言論・出版の自由が許されていたオランダには、多くのユダヤ教徒が亡命してきていた事実を指摘した。

ほとんどの生徒は、鎖国を日本側の政策としてのみ理解していたが、検証を進める中で、オランダが戦略的にアジア貿易を重視していたこと、中でも日本を重視していたことを知った。このように、他国から日本を見るという視点に気づき、歴史に対する見方を広げることができた。

また、4班から1班への指摘のような、「対日貿易の利益は、オランダに繁栄をもたらすほど大きかったのか」という疑問がいくつかの班からあがった。そこで、すでに学んだ「当時の日本が世界有数の銀の産出国であった」という事項を今回の学習と関連付けて、世界史における日本の位置付けについて確認させた。

さらに、3班のように州制に着目した班もあった。今日ではアメリカやドイツなどが州制を取り、地方の独自性を重視しながら国家として繁栄している。しかし、絶対主義時代において他国が強い君主権のもとに統合されていく中、7つの州の利害の調整もままならない状況では繁栄を維持することは難しい。州制は、視点としてはよいが、時代状況を考えると不適切である点を説明した。

授業の最後に、オランダの繁栄の理由について論述させ、まとめとした。次に挙げるのは生徒がまとめたものである。

商業での利益が国の繁栄に非常に貢献したと思う。まずアジアに香辛料を求めたことだが、ヨーロッパにおいて調味料としての価値の高い香辛料を手に入れることができれば莫大な利益に直結したと思う。またその貿易の際、列強国のスペイン・ポルトガルのアジアでの貿易の要所を略奪するなど利益を追求しつつ、相対的に自国の価値を上げるという抜け目のなさも大きいと思う。また、独立の反乱ではイギリスの支援を受け、スペインに勝利、その後スペインは再びオランダの略奪を目論むも、バルト海貿易で富を蓄え、国力を高め、最終的に休戦条約によって事実上の独立を獲得したように、オランダの成立の上では商業の成功が必ず絡んでいると思う。

商業の発達したネーデルラントにはカルヴァン派の新教徒が多く、オラニエ公ウィレムのもとに抵抗を続け、ネーデルラント連邦共和国の独立を宣言した。その際、独立を支援したイギリスを攻撃するためスペインは無敵艦隊を送ったが、敗れて制海権を失った。こうしてオランダは富を蓄え、東インド会社を設立して国力を強め、事実上独立を勝ち取り、他力ながらも繁栄することができた。

このように、ほとんどの生徒は正しく論述していた。**実践 1**と比べると、論述の内容が充実し、分量も増えた生徒が多くみられた。しかし、記述内容には偏りがみられたため、教師が重要事項を再度確認する必要がある。

### 3 アンケート結果

各実践の後に実施したアンケートの結果を以下に示す。回答は4（そう思う）、3（だいたいそう思う）、2（あまりそう思わない）、1（そう思わない）の4段階とし、4、3を肯定的回答、2、1を否定的回答とした。数値は、肯定的回答と否定的回答の割合を、**実践1**「オスマン帝国の成立と発展」の後の数値を矢印の左側に、**実践2**「オランダの独立と繁栄」の後の数値を右側に示した。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |    |   |    |               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----|---|----|---------------|
| 1 今回の授業は、皆さんが考えることを目的とした授業でした。講義形式の授業と比べてどうでしたか？                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |    |   |    |               |
| ①興味・関心をもてた                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 肯定的回答 | 97 | → | 90 | 否定的回答 2 → 10  |
| ②楽しかった                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 肯定的回答 | 82 | → | 83 | 否定的回答 18 → 17 |
| ③よく考えることができた                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 肯定的回答 | 93 | → | 97 | 否定的回答 7 → 3   |
| ④よく理解できた                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 肯定的回答 | 82 | → | 87 | 否定的回答 18 → 13 |
| ⑤またやってみたい                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 肯定的回答 | 72 | → | 60 | 否定的回答 25 → 40 |
| 2 感想・自由記述                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |    |   |    |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ暗記するよりも頭に入った。自分で調べたりする方が知識が身に付くと思う。</li> <li>・自分で仮説を立てて、それを実証していくというのがよかった。</li> <li>・他と関連させることで理解が深まった。</li> <li>・一つの事柄について深く考えるのもたまにはよいと思った。</li> <li>・自分たちで考えると、実際のこととの違いや同じ点が多々あって、楽しく覚えられた。</li> <li>・今までに習ったことを復習でき、また、オスマン帝国についても分かったことがあったのでよかった。</li> <li>・普段自分が思いつかないような意見が出てきて楽しかった。</li> <li>・教科書を隅々まで読むことができてよかったと思う。</li> <li>・良い授業形式だと思ったけど、少し時間がかかると思う。時間が足りなくて厳しかった。</li> <li>・理解度に偏りができてしまった。一分野についてしか調べられなかったのが残念だった。</li> <li>・いろいろ考える作業が多くて、結構大変だった。</li> </ul> |       |    |   |    |               |

「③よく考えることができたか」と「④よく理解できたか」という質問については、肯定的回答が増えている。特に③に対する肯定的な回答は、**実践2**の後では4%増えて97%となり、ほとんどの生徒が「考える」活動にしっかり取り組むことができたと感じていた。また、自由記述に、「ただ暗記するよりも頭に入った。」「他と関連させることで理解が深まった。」等とあるように、自分で調べたり考えたりする活動によって、理解が深まったと感じている様子がうかがわれる。

「②楽しかったか」という質問については、肯定的回答がどちらも約8割で変化がみられなかった。「①興味・関心をもてたか」については、肯定的回答がやや減少したものの、**実践2**の後でも9割と多くの生徒が「興味・関心をもてた」と回答している。

「⑤またやってみたいか」という質問については、否定的回答が25%から40%に増加した。講義形式に慣れている生徒は、ノートが残らないことや、授業で得られる知識に偏りが出てしまうことに不安を覚えたようだ。また、班で意見をまとめたり発表したりする学習形態は、生徒たちにとってかなり苦労があったようである。しかし、それでも「またやりたい」と感じた生徒が6割もいた、とともらえることができ、①から④の結果からみても、負荷の大きな学習ではあるが生徒の満足度も高かった、ということができる。

## 4 まとめ

### (1) 成果

生徒は、ある時代の情勢や国家をとりまく状況を踏まえて、国家の繁栄した理由を様々な角度から考えることができた。講義中心の授業では、一方的に知識を伝達することに偏り、生徒は受け身になりがちである。生徒に「考える」「調べる」「発表する」という活動をさせたことで、生徒の思考を促し活性化することができたと考えている。

また、課題を設定して考えさせる時間をもつことで、生徒は、新しい視点に気付いたり、歴史に対する見方・考え方を広げたりすることができた。例えば、**実践1**「オスマン帝国の成立と発展」では、生徒は、オスマン帝国が宗教的に寛容であったことを意外に感じていた。また、**実践2**「オランダの独立と繁栄」では、日本を中心とする見方だけでなく、他国から日本を見る視点をもつことができた。

さらに、アンケートで9割近くの生徒が「よく理解できた。」と回答したことや、自由記述に「ただ暗記するよりも頭に入った。自分で調べたりする方が知識が身に付くと思う。」「他と関連させることで理解が深まった。」等とあるように、生徒は、課題追究学習を行うことで、より知識が身に付き理解が深まったと感じていた。課題追究学習は、歴史的思考力を育成するだけでなく、知識・理解を確実にするためにも意味があることが分かった。

以上のことから、今回の実践により、歴史的事象を多面的・多角的に考察する力、その時代の特徴を他の時代や国と比較して把握する力の育成がある程度できたと考える。

### (2) 今後の課題

生徒は、班別学習という学習形態に不慣れなため、初めは班で調べたり意見をまとめたり発表したりすることが十分でなかった。そこで**実践2**では、各班で一つの仮説をしっかりと立てる指導をしたり、班ごとの連帯感を高める工夫をするなど、いくつかの改善を試みた結果、ある程度、班別の学習活動を活発にすることができた。班別学習については、繰り返し行うことで、教師も生徒も習熟する必要があると感じた。また、班ごとに得点が分かるようなしくみなど、学習に対するモチベーションをより高めるような工夫について、さらに検討する必要がある。

また、アンケートで「またやりたい。」と回答した生徒が減少したことや、「大変だった。」「時間がかかって厳しい。」「知識が偏りそうで不安。」という意見がみられたことからわかるように、今回の課題追究学習に対して、達成感よりもむしろ負担を感じた生徒も少なくなかった。授業の進度や生徒の進路等からも、今回のように、ひとつのテーマに3時間かける学習を頻繁に行うことは難しい。しかし、生徒の思考力を高め、知識・理解を確実にするために、より短時間で、教師、生徒双方の負担感を軽減しつつ、課題追究学習を継続することが望ましい。そのために、今後、学習方法や内容などをよく吟味し、工夫していくことが必要である。

## 事例2 歴史的事象について、絵画資料の読み解きを通して考察させる授業

### 1 ねらい

この事例では、絵画資料を読み取り解釈することを通して、歴史的事象を歴史的文脈の中で理解する力や、歴史的事象の意義について考察する力の育成を目指した。

世界史の授業では、教科書に沿って教師の講義を聞く場面が多く、生徒の主体的な活動が取り入れられることは少ないのが現状である。生徒の主体的な活動を促すための工夫として、生徒の興味・関心をひきやすい視覚的資料を活用することは有効であると考えた。

ヨーロッパ史のうち、「ルネサンス」「フランス革命」「産業革命」「19世紀の文化」の単位について、絵画資料から、歴史の流れ、変化、意義などを読み取って考えさせる授業を実施した。授業実践は、第2学年、第3学年を対象に行った。

なお、この事例では、「絵画を読み解くこと」とは「絵画を読み取り解釈すること」とであるとし、具体的には、絵画の全体的な印象、絵画のテーマや主題、描かれている具体的な事物、色彩や表現方法など、様々な部分に着目することによって、絵画に表れている時代の特徴や、歴史の動きや変化、歴史的事象がもつ意義などを理解したり考察したりする学習活動を行った。

### 2 指導計画・評価計画

#### (1) テーマ全体の評価規準

| 関心・意欲・態度                   | 思考・判断                                  | 資料活用 of 技能・表現                      | 知識・理解                            |
|----------------------------|----------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|
| 絵画資料に関心を持ち、積極的に課題に取り組んでいる。 | 絵画資料を読み解くことを通して、歴史の流れや変化、意義について考察している。 | 絵画資料を活用し、読み取ったことや考察したことを明確に表現している。 | 近代ヨーロッパの歴史について理解し、基礎的知識を身に付けている。 |

#### (2) テーマの実践計画

##### ①ルネサンス

古代・中世・ルネサンス期のそれぞれの時代に描かれた三美神の表現を読み取ることによって、歴史の流れをとらえ、ルネサンスはどのような運動であったのかを理解する。

##### ②フランス革命

革命前及び革命後の寓意画の読み取りを通して、フランス革命によりどのような変化があったのかを考察する。

##### ③産業革命

産業革命期の労働者階級が描かれている絵の読み取りを通して、労働運動や社会主義運動の発生について考察する。

##### ④19世紀の文化

新古典主義、ロマン主義、写実・自然主義、印象派と変遷した絵画のそれぞれの特徴から、その背景にある政治や社会の状況を読み取る。

### 3 授業実践

#### 実践1 ルネサンス

##### (1) 本時の目標

古代・中世・ルネサンス期のそれぞれの時代に描かれた三美神の表現を読み取ることによって、歴史の流れをとらえ、ルネサンスはどのような運動であったのかを理解する。

##### (2) 本時の指導計画・評価計画

| 段階  | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                                                                                                   | 指導上の留意点                                                      | 評価計画<br>〔評価方法〕                                                           |
|-----|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 導入  | 5分  | ○三美神について<br>・3枚の三美神の絵を見て比較する。                                                                                                                                               |                                                              |                                                                          |
| 展開  | 35分 | ○3枚を時代順に並べ替え、その根拠をワークシートに記入する。<br>（ワークシート①②）<br>○ワークシートの内容を発表する。<br>・正解を確認する。<br>○中世からルネサンスへ<br>・中世ヨーロッパ文化について復習する。<br>・人間性や個性を尊重するルネサンスについて、教師の説明を聞き、古典文化がその模範となったことを理解する。 | ・自由な発想でよいが、根拠を明確にするように指示する。<br><br>・ローマ＝カトリック教会の影響力について確認する。 | ・根拠に基づいて並べかえを行い、説得力のある理由が書けている。<br>【思考・判断】<br>【資料活用の技能・表現】<br>〔ワークシート①②〕 |
| まとめ | 10分 | ○ルネサンスとはどのような運動であったかについて、絵画から読み取ったことをもとにまとめる。（ワークシート⑥）                                                                                                                      |                                                              | ・絵画資料をもとにルネサンスについて理解している。【知識・理解】<br>〔ワークシート⑥〕                            |

##### (3) ワークシート

#### ワークシート〈ヨーロッパのめざめ〉

|   |                    |   |                         |   |                      |
|---|--------------------|---|-------------------------|---|----------------------|
| ア | 中世：14世紀の写本の<br>さし絵 | イ | ルネサンス：ボッティ<br>チェリ「春」の一部 | ウ | 古代：ポンペイ出土の<br>1世紀の壁画 |
|---|--------------------|---|-------------------------|---|----------------------|

①上の三美神を年代順に並べ替えてみよう。（ → → ）

②並べ替えた根拠を書いてください。

③表情や動きが硬い感じがする絵はどれですか。

④似ている絵はどれですか。（ と ）

⑤時代順に並べ替えた正解（ → → ）

⑥ルネサンスとはどのような運動なのだろうか。

#### (4)実践の概要

最初の並べ替えでは、間違いを恐れず自分の思ったとおり自由にやってみよう促した。ただし、その根拠を明確にしてワークシートに記入するよう指示した。

生徒は、楽しみながらあれこれと考えて並べ替えを行っていた。ほとんどの生徒が、自分なりの根拠を挙げて並べ替えることができた。色に注目したり、人間の描かれ方に注目したり、絵の細かさに注目したりなど、いろいろな角度から、絵を読み取ろうとしている様子が見られた。

並べ替えの結果としては、絵の表現が平面的か立体的か、動きがあるか、等の観点から「ア（中世）→ウ（古代）→イ（ルネサンス）」とした生徒が最も多かった。これは、教師の予想どおりであったことから、古代、中世、ルネサンスというそれぞれの時代の文化の特徴、特にカトリック教会の影響について説明し、絵画の表現にどのように表れているかを確認させた。その後、ワークシートの⑥にルネサンスとはどのような運動だったかを、あらためてまとめさせた。

以下は、生徒が並べ替えた結果とその根拠の主なものである。

##### ○ウ→ア→イと答えた生徒（正解）

- ・人が立体的に描かれるようになったから。
- ・衣服を身につけるようになってから。衣服にさまざまな種類がみられるから。
- ・絵の色がだんだん鮮やかになっているから。色づかいが古い順に並べた。
- ・イが一番細かいところまで描いてあったから。色づかいが細かくなっているから。

##### ○ア→ウ→イと答えた生徒（誤答）

- ・アは絵の描き方が壁画に似ているから（平面的）。イ、ウは絵が立体的になっているので新しいと思った。
- ・イの方が背景が描かれていること、絵の具の色などで新しいと思った。
- ・アは髪型や服装に自由がなく、しばられている感じがした。イは自由な感じがして色彩も鮮やか。
- ・体の線がより人間の体らしく表現され、色づかいが多いほうが後の時代のものだと思ったから。
- ・表現が豊かになっていると思うから。
- ・絵の技術（色使い、背景など）や三美神の体の動きを見て、この並びにした。
- ・アが壁画っぽくて、古い感じがした。ウよりイの方が色鮮やかで背景がしっかり描かれている。また、一人一人個性があるようなところに現代性を感じたから。
- ・新しくなるにつれて、より緻密に、丁寧な描かれている。だんだんと立体的になっている。
- ・アは3人とも堅苦しい感じがする。イは立体的で一番「三美神」という感じがする。ウはイに似ている。

##### ○ウ→イ→アと答えた生徒（誤答）

- ・身につけているものに注目した。ウはまったく何も身につけていないような裸。イは少しだけ身につけている。アは完全に服を着ている。
- ・一番昔は裸だったが、服を着る習慣が増えてきて、アはほとんど裸を隠している状態である。

## 実践2 フランス革命

### (1)本時の目標

革命前及び革命後の寓意画の読み取りを通して、フランス革命によりどのような変化があったのかを考察する。

(2) 本時の指導計画・評価計画

| 段階  | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                                                                                                                                                                | 指導上の留意点                                                  | 評価計画<br>〔評価方法〕                                                             |
|-----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 導入  | 5分  | ○フランス革命前後の寓意画<br>・ 2枚の絵画を見て、それぞれ革命前のものか後のものか予想する。<br>・ 正解を確認する。                                                                                                                                                                          | ・ 着目するところを明確にするように指示する。                                  |                                                                            |
| 展開  | 35分 | ・ それぞれの絵画から読み取れることを <b>ワークシート②③</b> に記入する。<br>・ フランス革命とはどのような革命なのかを考え、 <b>ワークシート④</b> に記入する。<br>○旧体制（アンシャン＝レژیーム）<br>・ フランス革命前の3つの身分について説明を聞き、寓意画でどのように描かれているかを確認する。<br>○フランス革命の展開<br>・ 国民議会結成までの経過について教師の説明を聞き、封建的特権の廃止宣言や人権宣言について理解する。 | ・ 岩が意味していることに着目させる。<br><br>・ 第1・第2身分と平民について、権利と義務を明確にする。 | ・ フランス革命によりどのような変化があったのか、絵画を踏まえて具体的に考察している。<br><b>【思考・判断】</b><br>〔ワークシート④〕 |
| まとめ | 10分 | ・ 寓意画の読み取りを踏まえて、フランス革命とはどのような革命なのかまとめる。 <b>(ワークシート⑦)</b>                                                                                                                                                                                 | ・ 最初の考えと比較させる。                                           |                                                                            |

(3) ワークシート

**ワークシート〈フランス革命〉**

① フランス革命前と後の絵をそれぞれ選ぼう。

ア

革命後の3身分

（聖職者、貴族、平民が1つの岩を背負っている）

イ

革命前の3身分

（平民が岩に押しつぶされて横たわり、岩の上に聖職者と貴族が立っている）

② アからどのようなことが読み取れるだろうか？

③ イからどのようなことが読み取れるだろうか？

④ ②・③から、フランス革命はどのような革命だと考えられますか？

（革命によってどのような変化があったのだろうか）

⑤ 旧体制（アンシャン＝レژیーム）

⑥ フランス革命の展開

⑦ フランス革命とは



#### (4)実践の概要

**実践2**では、2枚の寓意画を比較して、フランス革命によってどのような変化があったのかを考えさせた。生徒たちは、絵に込められた意図を読み取ることができた。また、**実践1**に比べて文章で表現することに慣れ、上達が感じられた。

2クラスで実施したうち、最初のクラスでは「岩」が意味していることに着目するよう促さずに考えさせたところ、「平等になった」ということは分かったが、具体的に何が平等になったのかを書けた生徒はいなかった。2番目のクラスで「岩」に着目するように指示したところ、岩の意味を解釈し、具体的に何が平等になったのかを考察することができた。この2クラスを比較すると、教師からの「絵のどこに着目するか」というアドバイスによって、思考が促されていたことが分かった。

後者で、ワークシートの④の記述を、次の評価基準で評価したところ、Aが9名、Bが21名であった。なお、無記入の生徒は7名であった。

評価基準 A フランス革命によってどのような変化があったのかを具体的に考察している。

B フランス革命によってどのような変化があったのか考察している。

以下は、生徒がワークシートに記入した主な内容である。

#### ③イ（革命前の絵）からどのようなことが読み取れるか。

- ・上的人是は下の人に働かせて楽をしている。AとBが権力をもっていた。苦しいことはCにおしつけている。
- ・平等ではなく、貴族がいい思いをしていて、平民は苦しい思いをしている。
- ・地位の高い人との格差がある。上下関係がある。
- ・地位の高い者などが上に立ち、下の者をこき使っている感じ。踏み台になっている岩は租税や教会への税などを表しているのではないかな。
- ・1人が2人分の税金を負担している。

#### ②ア（革命後の絵）からどのようなことが読み取れるか。

- ・3人で協力し合っているなので、貴族・平民が平等。
- ・革命が終わって立場が逆転した。地位など関係なしに皆で背負っていく感じ。
- ・全員がやるせない顔をしている。革命が起きたあとに苦しい状況に追いやられたように感じられる。全員が平等になった。
- ・階級が関係なくなった。税が重くなった。
- ・ABC皆岩をかついでいる。Bが後ろを見ている。この状況に納得いかないのだろうか。

#### ④フランス革命はどのような革命か。（革命によってどのような変化があったか。）

〈評価Aの解答例〉

- ・今までの身分制度を廃止し、国民を皆平等にしていく革命。
- ・すべての人の権利が平等になる革命。
- ・皆が平等に生活できるようにするための改革（税の負担など）。
- ・身分の差による税の負担の差をなくした。

〈評価Bの解答例〉

- ・貴族と平民を平等にするための革命。

### 実践3 産業革命

#### (1) 本時の目標

産業革命期の労働者階級が描かれている絵の読み取りを通して、労働運動や社会主義運動の発生について考察する。

#### (2) 本時の指導計画・評価計画

| 段階 | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                                                                                                                                         | 指導上の留意点                    | 評価計画<br>〔評価方法〕                                         |
|----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------|
| 導入 | 10分 | ○「児童労働についての調査報告」について、当時の少女たちの生活時間を円グラフ化して、現在の自分の生活と比較する。(ワークシート①)                                                                                                                                                 | ・現在と比較することで、問題点を把握しやすくする。  |                                                        |
| 展開 |     | ○「むちでうたれる少年労働者」の絵を見て、現在の労働状況と異なる点を挙げる。(ワークシート②)<br>○「労働者が生活するロンドンの路地裏」の絵から、当時の人々の生活の様子を読み取り、ワークシート①、②から分かることも含めて、産業革命期の労働者の生活について文章にまとめる。(ワークシート③)<br>○労働者のその後の行動を予想する。(ワークシート④)<br>○労働運動や社会主義思想の発生について、教師の説明を聞く。 | ・3つの作業から読み取ったことをもとにまとめさせる。 | ・資料から読み取ったことを自分なりに説明している。<br>【資料活用の技能・表現】<br>〔ワークシート③〕 |

(3) ワークシート

ワークシート 〈資本主義の発達と社会主義運動の発生〉

①教科書の「児童労働についての調査報告」を見て、当時の少女たちの生活時間を図Aにグラフ化してみよう。また図Bには昨日の自分の生活を書き込んで図Aと比較してみよう。

●児童労働についての調査報告(1832年)

Q：最も忙しい時期に、少女たちは何時に工場へ行きますか。

A：それは6週間ばかりの期間ですが、少女たちは朝3時に工場に行き、仕事を終えるのは夜10時から10時半近くでした。

Q：19時間の労働の間に、休息・休養のための時間はどれだけ与えられましたか。

A：朝食に15分、昼食に30分、そして飲料をとる時間に15分です。

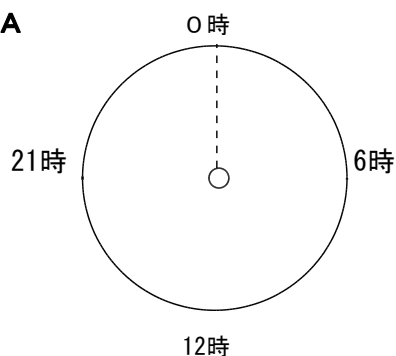
Q：もしも彼女たちが遅刻したらどうなるのですか。

A：給料をクォータ※されました。（※給料を4分の1減らすこと）

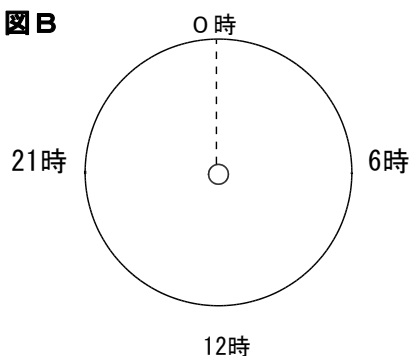
Q：どのくらい遅刻したらクォータされるのですか。

A：5分です。

図A

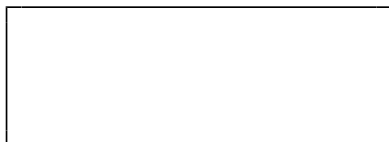


図B



②「むちでうたれる少年労働者」の絵を見て、現在の労働状況と異なる点はどこにあるか、

答えよう。



③「労働者が生活するロンドンの路地裏」の絵を見て、当時の路地裏の様子やそこに暮らす人々の様子を読み取り、①②から分かることも含めて、産業革命当時の労働者の人々はどのような生活をしていたか、まとめよう。



④労働者は、③のような生活状況のもとで、どのような行動に出ると予想できるだろうか。

(4) 実践の概要

**実践3**では、産業革命期の労働者の労働条件や生活状況について、グラフや絵画から読み取り、それをもとに労働者がとるであろう行動を考えさせた。その後、労働運動や社会主義思想について説明を加えることで、より深く共感的な理解につながったと考える。

②については、生徒は現在の労働状況を頭の中で思い浮かべ、現代と産業革命期とを比較しながら、当時の労働状況を読み取っていたようである。

③は、グラフと2枚の絵画の読み取りのまとめとして記述させた。ここでは、ほとんどの生徒が、グラフと絵画から読み取れることを、総合して書くことができた。

④では、③をもとにその後の労働者の行動を考えさせたが、生徒は、ほぼ歴史的事実に即して考えていた。導入部で自分の生活との比較を行ったことにより、現在と当時の労働環境の違いを実感することができ、労働者の状況をどうしたらよいのかを真剣に考えている様子であった。また、中学校までの社会科や現代社会で学んだ事項が生かされている面もあると考えられる。

③について、ワークシートの記述を次の評価基準で評価したところ、Aが15名、Bが7名であった。単純な比較はできないが、**実践2**「フランス革命」よりもAの生徒が増えている。また無記入の生徒は1名で、**実践2**より大幅に減った。

評価基準 A グラフと2枚の絵画から読み取ったことをもとに、総合的に説明している。

B グラフと2枚の絵画から読み取ったことの一部をもとに、説明している。

以下に、ワークシートの主な記入内容を挙げる。

②現在の労働状況と異なる点はどこにあるか。

- ・今の社会は労働基準法があり、一日の労働時間もきちんと決められ、このような厳しい労働もありえないのに、私たちと同年代の少年が給料も安いのにムチでたたかれてまで働いている写真を見ると、改めてひどい社会だったと感じた。
- ・今はムチで打たれることなどないから、相当厳しいものだったと思う。
- ・労働者に対する暴力が普通だった。
- ・女性と子供だけが働いている。(男性は見張り)
- ・見張り役のように監督がいた。
- ・今は少年の時に働かなくても生きていける。叩かれることはない。

③産業革命当時の労働者の人々はどのような生活をしていたか、まとめなさい。

〈評価Aの解答例〉

- ・不衛生で貧しい。長時間労働、安い賃金で働いていた。
- ・長時間働いているが、賃金が安いので生活が苦しい。
- ・賃金が安く、労働時間が長いけれども、それが当たり前の生活。

〈評価Bの解答例〉

- ・不衛生で貧しい生活をしていたが、家族は助け合っていたのではないかな。
- ・苦しい生活だが、家族がおり、笑顔が見られる。
- ・暮らしている場所が汚く、体も心も休まらない。

④労働者はどのような行動に出ると予想できるか。

- ・長時間労働と安い賃金をどうにか改善しようと、労働者たちで工場の管理人などに訴えた。
- ・労働者でグループを作り、意見を言うようになった。
- ・資本家のところへ大勢でおしよせる。
- ・労働組合を結成して、生活と権利を守る運動を始めた。
- ・低賃金で厳しい仕事だからやめてしまう。
- ・貧しくつらい生活に耐えられなくなり、暴動をおこす。
- ・犯罪に走る。
- ・ストライキ、ボイコット。

## 実践4 19世紀の文化

### (1) 本時の目標

新古典主義、ロマン主義、写実・自然主義、印象派と変遷した絵画のそれぞれの特徴から、その背景にある政治や社会の状況を読み取る。

### (2) 本時の指導計画・評価計画

| 段階  | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                                                                                                                 | 指導上の留意点                                                       | 評価計画<br>〔評価方法〕                                                                                                                                            |
|-----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入  | 5分  | ○19世紀の絵画計12点を鑑賞する。<br>(資料1参照)                                                                                                                                                             | ・絵画をスライドで見せながら、描かれている場面について簡単に説明する。                           |                                                                                                                                                           |
| 展開  | 40分 | ○12点の絵画を4つのグループに分け、その理由を <b>ワークシート</b> に記入する <b>(作業1)</b> 。<br><br>○グループ分けの正解及び作品名と作者名を確認する。<br><br>○資料2を参考にして、4つのグループがそれぞれ何主義なのかを判断し、時代順に並べ替える。判断の理由を <b>ワークシート</b> に記入する <b>(作業2)</b> 。 | ・絵画の全体的な印象だけでなく、描かれている題材に着目するよう指示する。また、時代状況が絵画に反映されることに留意させる。 | ・自分なりの理由に基づいてグループ分けをしている。<br><b>【思考・判断】</b><br>〔ワークシート作業1〕<br><br>・資料2をもとに何主義なのかを判断し、その理由を記述している。<br><b>【思考・判断】</b><br><b>【資料活用の技能・表現】</b><br>〔ワークシート作業2〕 |
| まとめ | 5分  | ○19世紀の絵画の特徴とその時代背景について、それぞれ確認する。                                                                                                                                                          |                                                               |                                                                                                                                                           |

(3) ワークシート

ワークシート〈19世紀の文化〉

作業1 ①～⑫の絵画を4つのグループに分けよう。(1グループ3枚に)

そして、なぜこのようなグループに分けたのか、それぞれ理由を書こう。

|   | グループ分け | 分 け た 理 由 |
|---|--------|-----------|
| A |        |           |
| B |        |           |
| C |        |           |
| D |        |           |

作業2 グループA～Dはそれぞれ何主義にあたるだろうか。資料2の年表や絵画の特徴を参考に判断し、時代順に並べ替え、その理由を書いてみよう。

| 時代順 | A～D | 主 義 | 理 由 |
|-----|-----|-----|-----|
| 1   |     |     |     |
| 2   |     |     |     |
| 3   |     |     |     |
| 4   |     |     |     |

(4) 配付資料

授業の最初にスライドで提示するとともに、生徒に配付した絵画資料は、以下のとおりである。

資料1

- ①ダヴィド『ホラティウス兄弟の誓い』
- ②モネ『印象・日の出』
- ③ミレー『落ち穂拾い』
- ④ドラクロワ『民衆を導く自由の女神』
- ⑤ダヴィド『サヴィニの女たち』
- ⑥ドラクロワ『キオス島の虐殺』
- ⑦ジェリコー『メデューズ号の筏』
- ⑧ミレー『晩鐘』
- ⑨スーラ『グランドジャット島の日曜日の午後』
- ⑩ルノワール『ムーラン＝ド＝ラ＝ギャレット』
- ⑪ダヴィド『ナポレオンの戴冠式』
- ⑫クールベ『石割り』

4つの絵画グループがそれぞれ何主義なのかを判断して時代順に並べ替える際に、参考にさせた資料は以下のとおりである。

| 資料2 年 表<br>(主なできごと、社会状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 絵画の変遷と主な特徴                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1776 アメリカ独立宣言<br>1789 フランス革命始まる、人権宣言<br>(理性の尊重)<br>1804 ナポレオン、皇帝となる<br>(自分を古代ローマの皇帝になぞらえる)<br>1814 ナポレオンの没落<br>1815 ウィーン体制成立<br>*自由主義運動、民族主義運動<br>1830 七月革命<br>*フランスで産業革命始まる<br>1848 二月革命<br>*産業革命の進展 → 資本主義の発達、市民の台頭<br>資本家と労働者の階級対立<br>1852 ナポレオン3世即位<br>*国民主義運動の進展<br>1861 イタリア王国成立<br>1871 ドイツ帝国成立<br>1878 パリ＝コミューン(史上初の社会主義政権の誕生)<br>*科学技術の発達<br>*カフェの流行(庶民の社交場として)<br>1870年代 *帝国主義時代の始まり | <div data-bbox="975 376 1018 741">新古典主義</div> <div data-bbox="1038 331 1422 465"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代ギリシア・ローマを模範に理想的な美を描く</li> <li>・線描の正確さ</li> </ul> </div> <div data-bbox="1038 562 1082 786">ロマン主義</div> <div data-bbox="1102 562 1422 741"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新古典主義を批判</li> <li>・自由な想像力で、人間の感情や行動を劇的に描こうとする</li> </ul> </div> <div data-bbox="975 831 1018 1245">写実主義・自然主義</div> <div data-bbox="1038 1021 1082 1245">印象派</div> <div data-bbox="1102 831 1422 1066"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理想や空想美でなく、身の回りの素材に美を見いだす</li> <li>・農民・労働者のありのままの姿を描く</li> </ul> </div> <div data-bbox="1102 1111 1422 1339"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学の発達に影響され光の変化に応じる色調の変化、一瞬の主観的印象を描く</li> <li>・身近な光景が題材</li> </ul> </div> |

## (5) 実践の概要

ワークシートの作業1で、絵画のグループ分けをさせ、その理由を書かせた。その際、絵画の全体的な印象や表現方法だけに着目するのではなく、当時の政治・社会状況が絵画に反映されていることを意識し、描かれている題材にも着目するよう指示した。

グループ分けの結果としては、写実主義・自然主義と印象派については、多くの生徒が分類でき、理由を書くことができた。新古典主義とロマン主義については、絵画の印象や題材が類似しているものがあり、難しかったようだ。しかし、新古典主義及びロマン主義の絵画と、自然主義及び印象派の絵画とを混同して、同じグループとした生徒は数名だけであった。また、3つの絵画のうち2つは正しく分類できた生徒が多かった。これらのことから、絵画を題材や特徴によっておおまかに分類することはできたと考えられる。

正答及び正答者数と主な理由、代表的な誤答と主な理由は以下のとおりである。(生徒数は29名)

正答

- ①・⑤・⑪ 2名 ・戦いの様子から。  
(新古典主義)
- ④・⑥・⑦ 2名 ・1番強い人が弱い人の上に立っているから。  
(ロマン主義) ・戦う人々、死人が描かれている。
- ③・⑧・⑫ 20名 ・農民の暮らしている様子が描かれている。  
(写実・自然主義) ・質素な感じがする。服装が似ているから。  
・タッチが似ていたから。
- ②・⑨・⑩ 18名 ・色が鮮やかで、光と色の変化がある。  
(印象派) ・平和でおだやかな感じがするから。  
・色遣いやタッチが近代的な感じがしたから。

主な誤答例

- ①・④・⑤ 10名 ・戦いの様子や服装が似ていると思ったから。  
・戦いの中で女性が表されている。  
・絵の描き方が似ている。もめている。
- ⑥・⑦・⑪ 7名 ・歴史的な出来事が絵になっているから。  
・タッチが似ている。
- ②・③・⑧ 2名 ・平和そうで静かな感じ。
- ⑨・⑩・⑫ 2名 ・貴族のようで高級な感じ。カラフルで良い服装をした人がいる。

作業2では、資料2を参考にして、それぞれのグループが何主義にあたるのかを理由も合わせて考えさせ、時代順に並べ替えをさせた。資料2で十分な情報を与えたため、多くの生徒が正しく答えることができたが、記述が画一的になる傾向があった。

生徒が記述した主な理由は以下のとおりである。

- |                    |                                                                                                                        |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新古典主義<br>(正答18名)   | ・古代ギリシア・ローマの時代の様子が表されていると思ったから。<br>・ナポレオンが登場している。<br>・1人1人が正確に描かれているから。                                                |
| ロマン主義<br>(正答15名)   | ・現代ではあり得ない感じが「想像力」に値していると思うから。<br>・何かの主張をしているのが、絵から読み取れるから。<br>・人間の感情が強く伝わってくるから。(苦しみ、悲しみ、怒りなど)<br>・革命などの戦いの様子が描かれている。 |
| 写実・自然主義<br>(正答20名) | ・農民・労働者のありのままの姿が描かれている。<br>・絵の背景に自然が描かれているから。<br>・農民などの人々の生活(日常)が描かれているから<br>・空想的な美しさがない。                              |
| 印象派<br>(正答20名)     | ・影の付け方、背景の色遣いが光の変化に応じて描かれている感じ。<br>・カラフルで色調の変化が強調されているのが分かるから。<br>・平和的、色づかいが鮮やか。                                       |

**実践4**では、単に絵画の名前とその主義の特徴を覚えるのではなく、絵画の変遷と、その背景にある政治・社会状況の変化との関連に考察が及び、19世紀のヨーロッパについて理解が深まったように思われる。なお、実践する際には、絵画史・美術史的な内容に傾かないよう留意する必要がある。



#### 4 アンケート結果

4つの実践が終わった後で、アンケートを実施した。結果は以下のとおりである。

(1) 絵画を使うことで、ルネサンスに対する理解は深まりましたか。

|                   |    |                |     |
|-------------------|----|----------------|-----|
| ア 深まった            | 3名 | イ どちらかといえば深まった | 21名 |
| ウ どちらかといえば深まらなかった | 2名 | エ 深まらなかった      | 0名  |

(2) 絵画を使うことで、フランス革命に対する理解は深まりましたか。

|                   |    |                |     |
|-------------------|----|----------------|-----|
| ア 深まった            | 7名 | イ どちらかといえば深まった | 17名 |
| ウ どちらかといえば深まらなかった | 1名 | エ 深まらなかった      | 1名  |

(3) 産業革命では、絵画を使って現在と当時の労働状況を比較しました。そして、その後の労働者の行動について予想してもらいました。

① 自分自身で歴史の展開を予想することができましたか。

|                  |    |               |     |
|------------------|----|---------------|-----|
| ア できた            | 2名 | イ どちらかといえばできた | 19名 |
| ウ どちらかといえばできなかった | 4名 | エ できなかった      | 1名  |

② 予想してみてどのように感じましたか。

- ・ 現代とは違い、厳しい生活だったと思いました。自分で考えていた以上のものが絵に描かれていました。現代につながる絵が多いと感じました。
- ・ 民衆の様子を後世に残すために絵画は重要な役割をもっていたと思いました。
- ・ 労働者が協力して解決すると思った。今の時代にそのようなことがあったら、私たちも同じことをしていたと思った。
- ・ 時代と共に労働も変化したことを知った。今もいろいろな意味で大変だが、昔は昔で絶対に働きたくなかったと思った。
- ・ 昔の労働は今よりはるかに大変だったと感じた。
- ・ 昔と今では全然違うことに大変驚きました。
- ・ いつの時代も人間が行うことはあまり変わらないものだったと思った。

(4) 19世紀の文化では、絵画のグループ分けをしてもらいました。

① どうでしたか。

- ・ 難しかったけれども、いろいろな時代背景を知ることができてよかった。
- ・ 絵画で時代の背景が読み取れて、絵画はすごいものだったと思った。
- ・ とても楽しかった。また是非やりたい。
- ・ なかなか難しかったけれども、半分は当たった。答えの理由は違ったけれども、間違えたことで良く覚えられそう。
- ・ 少し難しかったです。でも、いろいろ自分なりの考えを出せたので良かったです。
- ・ 事前に絵画の説明をしてほしかった。絵の画像が細部まで見えなかったので、グループ分けをするのが難しかった。画像はもっと大きくしてほしい。
- ・ みんなで意見を出し合って考えながらできて勉強になった。
- ・ 難しくて全然分からなかった。絵のタッチが似ていても時代が全然違っていった。
- ・ 難しかったが、グループ分けを自らすることで、忘れにくい内容になったと思いました。

② 今まで絵画の読み取りを授業中に何回か行ってきましたが、今回それが生かされましたか。

|                   |    |                |     |
|-------------------|----|----------------|-----|
| ア 生かした            | 4名 | イ どちらかといえば生かした | 17名 |
| ウ どちらかといえば生かせなかった | 2名 | エ 生かせなかった      | 1名  |

## 5 まとめ

### (1) 成果

絵画資料を読み取って解釈することを何度か繰り返すことで、絵画の読み取りに習熟する生徒の様子が見られた。様々な視点から絵画を読み取り、絵画が表現するものの意味や、その時代背景について考えることができるようになった。**実践4**「19世紀の文化」の後で実施したアンケートでも、「今までの授業で行ったことが生かされたか」という問いに対して、9割近くの生徒が肯定的な回答をしている。教師も、生徒の考察を促すために絵画を読み取る際の着眼点を適切に示すことが、徐々にできるようになった。

また、生徒の感想には「楽しかった、またやりたい。」「難しかった。でも楽しかった。」「カラーでおもしろかった。」などがあつた。視覚に訴え、イメージをつかみやすい絵画は、生徒にとってあまり身近であるとはいえない世界史の教材として非常に有効であると感じた。また、絵画のもつメッセージ性やその役割を実感した生徒もいた。絵画資料を活用することで、生徒の興味・関心が高まり、それが学習意欲を高めることにもつながったといえる。

さらに、「自分で考えることによって内容に対する理解が深まった。」「みんなで意見を出しながら考えられて勉強になった。」「間違えたことでかえって良く理解できた。」「グループ分けを自らすることで、忘れにくい内容になった。」などの感想から分かるように、課題追究学習に取り組むことで、知識・理解も深まるという結果も得られた。

以上のことから、絵画の読み解きを通して、歴史の流れを理解する力や歴史的事象の意義について考察する力を育成するというねらいは、ある程度達成できたと考える。

### (2) 今後の課題

**実践4**「19世紀の文化」については、「難しかった。」という感想が多く、「事前に絵画の説明をしてほしかった。」という意見もあつた。絵画に関する情報が少ないと難易度が上がり、逆に多すぎると易しすぎて考える余地のない学習になってしまう。生徒に適切な判断材料を与え、かつ思考を促すような情報の提示が課題である。

絵画の提示の仕方や、効果的な絵画資料については、まだ検証が不十分であり、今後も実践を重ねていく必要がある。

また、今回の授業実践は、生徒がそれぞれ一人で考える形態で行ったが、生徒同士の学び合いを促すために、今後は、ワークショップ型のグループ活動も取り入れてみたい。

### 事例3 歴史的事象について、その理由・背景に着目して考察させる授業

#### 1 ねらい

この事例では、歴史的事象の理由や背景についての問いかけを中心に授業を組み立て、発問に対する考察や仮説を記述させる学習活動を反復して行うことにより、歴史を原因と結果のつながりとして捉え、歴史的事象を歴史的文脈の中で理解する力を育成することを目指した。

歴史的思考力の育成の重要性が指摘されるようになって久しいが、授業の場では、生徒に考えさせる課題追究的な学習活動が十分に取り入れられているとは言えない状況が続いている。その原因の一つとして、課題追究学習は、多くの授業時数や教師の膨大な準備を必要とするものと捉えられてきたため、容易に取り入れにくかったことがあったのではないかと考える。

このようなことから、この事例では、普段の授業の中で、生徒の関心を喚起し知的好奇心を刺激するような発問を繰り返すことによって、生徒の思考を促し、歴史的思考力の育成を図ることをねらいとした。なお、授業実践は第2学年を対象に行った。

#### 2 指導計画・評価計画

##### (1) テーマ全体の評価規準

| 関心・意欲・態度                            | 思考・判断                               | 資料活用の技能・表現                          | 知識・理解                                   |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------|
| 歴史的事象の理由や背景について考察することに、積極的に取り組んでいる。 | 教科書や資料集等を活用して歴史的事象の理由や背景について考察している。 | 教科書や資料集等を適切に活用し、考察したことを自分なりに表現している。 | 原因と結果のつながりから成る歴史の展開を理解し、基礎的な知識を身に付けている。 |

##### (2) テーマの実践計画

###### ①宋の成立

文治主義を実施した時代背景と、文治主義のもたらした功罪について考察することを通して、北宋前半の政治史の展開を理解する。

###### ②東西の文化交流（モンゴル帝国）

キリスト教諸国がモンゴル帝国へ使節を派遣した理由について考察する。

###### ③イスラームの成立と発展

ムハンマドが短期間でアラビア半島を統一できた理由について考察する。

###### ④フランク王国の成立と発展

フランク王国発展の要因について、ローマ教会と結び付けて考察し、理解する。

#### 3 授業実践

##### 実践1 宋の成立

###### (1) 本時の目標

文治主義を実施した時代背景と、文治主義のもたらした功罪について考察することを通して、北宋前半の政治史の展開を理解する。

(2) 本時の指導計画・評価計画

| 段階  | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                | 評価計画<br>〔評価方法〕                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入  | 5分  | ○五代十国時代の確認<br>・五代の諸国がなぜ短期間に興亡を繰り返したのかを確認する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 展開  | 40分 | ○宋の文治主義<br>・文治主義の特徴とそれが実施された理由を考察する。<br>《発問①》節度使の権限を縮小したのはなぜか。<br>《発問②》科挙に殿試を追加したのはなぜか。<br>・自分の考えをノートに記入し発表する。<br><br>○宋の対外関係<br>・文治主義の問題点を考察する。<br>《発問③》軍隊は敵の侵入を防ぐことができるか、できないか。またその理由。<br>《発問④》自分だったら敵（北方民族）にどのような提案をして乗り切ろうとするか？<br>・自分の考えをノートに記入し発表する。<br><br>○宋の財政難打開策<br>《発問⑤》今まで以上にお金やものが必要になったことにより、どんな問題が起きたか。<br>《発問⑥》財政難に対処するために、自分ならどんな政策を実施するか。<br>・自分の考えをノートに記入し発表する。 | ・導入で確認した前時代の状況を踏まえて考えるように促す。<br><br>・自分の考えをノートに記した後、近くの人と相談して考えを発展させ、発表させる。<br>・考察結果を皇帝独裁体制の成立と結び付けて説明する。<br><br>・軍事的に劣る宋は、どのような対応をして乗り切ろうとするか、自分が宋の政治家であればどのような提案をするか考えさせる。<br>・生徒の発言のうち、実際に宋王朝が採用したものを指摘し、澶淵の盟について説明する。<br><br>・自分が宋の政治家だったらどうするか、その立場になったつもりで考えさせる。 | ・五代十国時代の状況を踏まえて、宋の文治主義について考察している。<br><b>【思考・判断】</b><br>〔ノート、発表〕<br><br>・文治主義の結果、軍事力が弱体であった宋が、北方民族にどのように対応したか、自分なりに考えて表現している。<br><b>【思考・判断】</b><br><b>【資料活用の技能・表現】</b><br>〔ノート、発表〕<br><br>・宋が財政難に陥った原因について理解し、その対策について考察している。<br><b>【思考・判断】</b><br>〔ノート、発表〕 |
| まとめ | 5分  | ・本時のまとめ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ・次時は、財政難に対して宋がとった対処について扱うことを予告する。                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                            |

### (3)実践の概要

**実践1**では、宋で文治主義が行われた理由とその影響について、発問を中心に授業を構成した。生徒には、発問に対する自分なりの考えをノートに記入させた後、近くの人と相談して考えを深めさせ、何人かを指名して発表させた。他の生徒の考えや教師の説明は、自分の答えとは区別してノートに書くように指示した。授業の後には、毎回ノートを回収し、生徒の記述を評価するとともにコメントを書き加えて返却した。

今回は最初の実践であったため、できるだけゆっくり丁寧に進めるようにした。特に授業前半の発問①、②は、時間をかけて説明し、考える時間をとった。生徒の多くは、教師の指示を聞いて、戸惑いながらも自分の考えを記述していたが、何も書けない生徒も数名見られた。授業の後半では考えたり発表したりする時間が十分とれず、発問③以降は無記入が多くなってしまった。以下に、生徒の主な記述内容を示す。

#### 《発問①》

- ・権限を縮小すれば（皇帝が）殺されないから国が安定する。
- ・節度使の権限を大きくしたら皇帝も倒す野心をもってしまうから。
- ・節度使の権限を縮小することにより、皇帝の命令を行き渡らせるようになれば、国の安定、皇帝の独裁が出来るようになる。
- ・これ以上皇帝を倒すような節度使を出さないため。
- ・皇帝がまた殺されないように、節度使の立場を低くし、皇帝よりも上の地位に立たせないようにするため。

#### 《発問②》

- ・合格できたのは最終的に皇帝のおかげだから、「じゃあ、皇帝のために頑張ろう！」ってなる？
- ・皇帝の命令をよく聞く人が採用される。皇帝が信頼できそうな人を自分で選べる。
- ・皇帝が認めることにより、皇帝に尽くそうとしてくれるから。皇帝のために必死で働かせるため。
- ・君主と官僚の間に、直接のつながりが強調され、信頼をもたせることができるから。

#### 《発問④》

- ・お金をあげる。土地や食糧をあげる。
- ・話し合いをする。和平を結ぶ。
- ・貿易する。
- ・仲良くなって味方につける。

#### 《発問⑤》

- ・銀や絹などの高いものをあげてばかりいたから、お金がなくなる、物もなくなる。

#### 《発問⑥》

- ・農民からお金をまきあげる。
- ・新しい法律や制度をつくる。
- ・お金を作る。

## 実践2 東西の文化交流（モンゴル帝国）

### (1) 本時の目標

13～14世紀の、モンゴル帝国を中心とするユーラシア大陸の東西交流について理解し、キリスト教諸国がモンゴル帝国へ使節を派遣した理由について考える。

### (2) 本時の指導計画・評価計画

| 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                         | 指導上の留意点                              | 評価計画<br>〔評価計画〕                                           |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 15分 | ○東西文化の交流<br>・13～14世紀の世界情勢を確認する。<br>《発問①》この時期にキリスト教諸国がモンゴル帝国へ使節を派遣した目的は何か。<br>・自分の考えをノートに記入して発表する。 | ・西ヨーロッパとイスラーム世界との十字軍以後の関係を踏まえて考えさせる。 | ・当時のユーラシア大陸の情勢を踏まえて考察している。<br><b>【思考・判断】</b><br>〔ノート、発表〕 |

### (3) 実践の概要

**実践2**では、キリスト教世界からモンゴルに使節が派遣された理由について考えさせた。授業全体を発問を中心に組み立てることが難しかったため、15分程度、課題追究学習の時間を設定した。短い時間であっても、生徒に課題について考えさせ、その結果を自分なりに文章で記述させ、教師がそれを評価するということを、何回も繰り返し行うようにした。

発問に対しては、最初は「使節」という言葉から遣唐使を連想した解答が多かった。教師が、イスラーム諸国に対してキリスト教国の力だけでは対抗しきれなかったことを説明したところ、同盟や挟撃を目的とするという解答を導くことができた。考察させる際に、その手がかりとなる知識やヒントを、どの段階でどの程度示すかということが課題であると感じた。

以下に生徒の主な記述を示す。

#### 《発問①》（無記入8名）

- ・モンゴル帝国を知るために使節を送った。
- ・戦術とか、どうして自分たちが苦戦した相手を倒せたのか聞くため。
- ・ヨーロッパが勝てなかったイスラーム諸国を倒したモンゴル帝国がどんな戦いをして勝ったのかを調べて取り入れようとした。
- ・イスラームへの攻撃を手伝ってもらうため。協力してもらってイスラーム諸国を倒すため。
- ・同盟を結ぶため。
- ・モンゴル帝国に自分の国を攻めないよう頼む。

### 実践3 イスラム世界の成立と発展

#### (1) 本時の目標

イスラム世界の成立と発展の過程について理解するとともに、ムハンマドが短期間でアラビア半島を統一できた理由を考える。

#### (2) 本時の指導計画・評価計画

| 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                            | 指導上の留意点                                                                                                  | 評価計画<br>〔評価方法〕                                                                      |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 15分 | ○ムハンマドの活動<br>・ムハンマドのアラビア半島統一までの過程を確認する。<br>《発問①》ムハンマドがアラビア半島を短期間で統一できたのはなぜか。<br>・自分の考えをノートに記入して発表する。 | ・メディナの人々をイスラム教でまとめメッカ占領に成功したことに留意させる。<br>・ヒジュラからメッカ占領まで8年かかったのに対し、メッカ占領から半島統一までは1年余りである。この事に注目させつつ考察させる。 | ・ムハンマドのアラビア半島統一までの過程を踏まえて、具体的な根拠のもとに理由を考察している。<br><b>【思考・判断】</b><br><b>〔ノート、発表〕</b> |

#### (3) 実践の概要

**実践3**では、ムハンマドがアラビア半島を短期間で統一できた理由について考えさせた。**実践2**「モンゴル帝国」と同様、考察する手がかりとなる知識や着眼点を示すことにより、生徒はある程度すんなりと課題に取り組むことができた。今回は、日本とアラビア半島を比較させ、「日本よりもはるかに広大な半島を短期間で統一できた秘訣は何だろうか」と問いかけた結果、生徒は、軍勢力以外の宗教の力について気付くことができた。間違いや失敗を怖れて消極的になりがちな生徒の実態を踏まえ、思考を誘導し解答が画一的になる面はあるが、学習意欲を喚起するためにも、手がかりを提示することが必要と考えた。

以下に、生徒の主な記述を示す。

#### 《発問①》（無記入6名）

- ・630年にメッカを占領した実績があり、アラビア半島の人々がムハンマドについてきた。
- ・メッカ占領成功をきっかけに、ムハンマドの言うこと＝神の言ったことをやったら成功したと人々が思い、ムハンマドの言うことは正しいと思うようになり、口コミで広がった。
- ・アッラーのお告げでムハンマドはメッカを占領できたので、人々は彼を神の使者だと思った。
- ・アッラーを信じていれば勝てるということが人々に強く根付いたから。
- ・ムハンマドがアラビア半島で布教しまくった。

### 実践4 フランク王国の成立と発展

#### (1) 本時の目標

フランク王国の成立と発展の要因について、ローマ教会の発展と関連させて考察し、理解する。

## (2) 本時の指導計画・評価計画

[illegible]



### (3)実践の概要

**実践4**では、フランク王国の成立と発展について、発問を中心に授業を構成した。生徒は、**実践1**「宋の成立」に比べて、課題に対して自分の考えを記述するという学習に慣れ、抵抗がなくなってきたようだ。書くのに要する時間が短縮され、無記入の生徒も減少した。

《発問①》では、フランク王国以外のゲルマン諸国の失敗例を踏まえ、改宗による政治的な効果について考察させた。多くの生徒が「住民との協力関係を構築するため」という事に気付いた。《発問④》では、カロリング家の功績とローマ教会の立場、そしてメロヴィング家が支持を失っていた政治状況とを総合して考えさせたかったが、全てに言及できた解答はなかった。複数の事項を結びつけて結論を導くことはまだ難しく、今後更に習熟が必要だと感じた。

以下に、生徒の主な記述を示す。

#### 《発問①》（無記入0名）

- ・ローマ人が国の人口のほとんどを占めているので、アタナシウス派にした方が国もまとまりやすくなるから。
- ・アタナシウス派のローマ人が人口のほとんどを占めているため、ローマ人とのトラブルをなくすために改宗した。
- ・97%を占めるアタナシウス派の人をまとめるのは大変だから。
- ・アタナシウス派にすれば味方が増えるから。
- ・アリウス派を信じているフランク人は少ないので、すぐ変えられる。
- ・住民同士のトラブル・反発を起こさないため、住民に合わせて宗教を変えた。
- ・アリウス派だったら内戦が起きる。
- ・東ゴートのようにならないため、宗教をまとめようとした。

#### 《発問②》（無記入3名）

- ・ローマ教会はビザンツ帝国の圧力に対抗するために、ビザンツ帝国より強い国を味方にしようとした。
- ・フランク王国の力を借りて対抗できるようにする。
- ・信者の力を合わせてビザンツ帝国の圧力をはね返す。
- ・ビザンツ皇帝に使者を送ってゲルマン人への布教の大切さを訴える。
- ・表では聖像を使って布教することをやめて裏で隠れて聖像を使い布教する。
- ・レオン3世に聖像を認めさせる。

#### 《発問④》（無記入3名）

- ・カロリング家はトゥールポワティエ間の戦いで勝利したことから、メロヴィング家より住民を味方につけることができたから。
- ・実績がカロリング家にあって、メロヴィング家は国が不安な中何もしなかったこともあって、民はキリスト教をカロリング家のおかげで続けられたので、民に異議がなかったから。
- ・カロリング家への期待がかなり高まっていたから。
- ・教会（教皇）が支持（教会を救ってくれたお礼）。
- ・キリスト教を守ったカール＝マルテルの子だから。
- ・ピピンが有能だったから。
- ・メロヴィング家は無力だから、いても仕方がないので追放。
- ・人々が期待していたのに親（カール＝マルテル）が何もしなかったから、子供がやった。

## 4 アンケート結果

**実践4**「フランク王国の成立と発展」を終了した後に簡単なアンケートを実施した。結果は以下のとおりである。

○次の①～⑤から、自分に最もあてはまるものを1つ選んで下さい。

- |                           |     |
|---------------------------|-----|
| ①書くことに対する抵抗感がなくなった        | 15名 |
| ②以前よりいろいろな材料をもとに書けるようになった | 9名  |
| ③何か書いてみようと思うようになった        | 6名  |
| ④変化なし（もともとできていた）          | 2名  |
| ⑤変化なし（できないまま）             | 3名  |

○授業で考える時間をとって学習することについての感想（自由記述）

- ・ どのような経緯で事件が起こったのかわかり、覚えやすい。
- ・ 自分の意見と答えを比べることで違いを見つけることが出来、理解しやすい。
- ・ 自分の考えを事前を書くことで考えがまとまる。突然答えろと言われると上手く言えない。
- ・ 自分の意見やみんなの意見を聞くことが出来る。
- ・ 授業内容が理解できると思う。
- ・ 自分で考えて書いた方が覚えやすい。
- ・ 前に書いてあったノートを見るのが楽しい。
- ・ あまり世界史は考えることがないから、考えられていい。
- ・ 考える時間があると集中できると思う。
- ・ 続けていたら自分の成績が上がった。
- ・ 自分のためになる。答えを書くことが楽しくなった。
- ・ 苦手。
- ・ もっと続ければ自分が変わるかもしれない。

何かを書いてみようと思うようになったり、書くことに対する抵抗感がなくなったとする生徒が約60%、いろいろな材料をもとに書けるようになったとする生徒が約25%であった。

本実践によっても「以前と変わらず書けないまま。」とする生徒も3名いたが、自由記述に「もっと続けば変わるかもしれない。」と書いている生徒もあり、書けないからと言ってあきらめない姿勢が見られた。

## 5 まとめ

### (1) 成果

今回の実践を通して、生徒は、歴史的事象の背景・理由やその結果について、具体的な根拠に基づいて考え、自分の言葉で表現することが、少しずつではあるができてきたといえる。数か月にわたって、発問に対して考え、記述する学習活動を継続的、反復的に行うことにより、生徒は、自分で考えることや書くことに対する抵抗が薄れ、スムーズに取り組めるようになった。

アンケートで「書くことに対する抵抗感がなくなった。」「以前よりいろいろな材料をもとに書けるようになった。」と回答した2名の生徒について、考察がどのように変化したか、次の表に示した。

| アンケートの回答                      | 実践1 《発問①》<br>節度使の権限縮小目的(6月) | 実践4 《発問①》<br>アタナシウス派への改宗理由(11月)                         |
|-------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------------------------|
| 生徒A<br>「書くことに対する抵抗感がなくなった」    | 無記入(板書を写すのみ)                | ローマ人の人口の方が多いためまとめやすい。                                   |
| 生徒B<br>「いろいろな材料をもとに書けるようになった」 | 皇帝を殺して自分が皇帝になろうと出来なくなる。     | アタナシウス派のローマ人が多数を占めているため、ローマ人とのトラブルをなくすために改宗し国をまとめやすくする。 |

生徒Aは、実践1では無記入であったが、実践4では自分なりの考えを書いている。また、生徒Bは、実践1では考察の根拠を書いていなかったのに対し、実践4では根拠を明示して理由を書けるようになった。

このように、生徒のノートをもとに記述内容を評価した結果、回数を重ねるに従って、根拠を示して理由を述べられるようになったり、文章量が増えたり、無記入が減ったりしたことが分かる。

教師の指導技術という点でも、問いかけの仕方や、考察の手がかりとなる根拠の示し方、示すタイミングなど、生徒の学習活動を活発にするための働きかけが、効果的に行えるようになってきたと感じる。発問する際、その数時間前の授業で、発問の伏線となる事項をきちんと押さえておくというような準備を意識して行うようにもなった。実践を反復的・継続的行ったことは、教師の指導技術の向上にもつながったといえる。

また、生徒は、自分がその立場だったらどうするかという問いかけに対して、問題を自分に引きつけて考えようとしていた。世界史は自分と無関係な世界の出来事ではなく、同じ人間がつくってきたものであることを感じ、興味をもつきっかけとなったといえる。

さらに、発問に対して積極的に考えようとする態度も徐々に身に付いてきた。授業の後に、必ず一人一人のノートを提出させ、評価しコメントを加えて返却したことは、生徒を励まし自信をもたせ、取り組みを促す効果があった。

以上のことから、歴史を原因と結果のつながりとして捉え、歴史的現象を歴史的文脈の中で理解する力を育成するというねらいは、ある程度達成できたと考える。

## (2) 今後の課題

考察させる際に、考えるヒントや材料を教師から数多く提示したことは、生徒に自由な発想をさせるという点で課題があった。教師が生徒の思考を誘導していた面があり、生徒の解答もおおむね教師の意図したものから大きくはずれることはなかった。生徒は、自信のなさや、間違いや失敗を恐れるあまり、指名されても答えないことが多いので、生徒の考えたり答えたりしようという気持ちを高めるためには、ヒントを与えることが有効であると考えた。今後は、より少ない手がかりをもとに考えていけるよう、継続して指導する必要がある。

また、生徒によって解答の質にばらつきが多く、その差は徐々に拡大してきた。論理的に解答できる生徒が増えてきた一方、思いつきだけで安易に答えている生徒が少なくない。苦手意識を強く持っている生徒も多い。発問内容や考える材料の提示方法を一層工夫して、生徒の取組を促す働きかけが必要である。

## おわりに

本研究の実践では、課題を追究する学習を通して歴史的思考力を育成することを目指した。**事例 1**では歴史的事象を多角的に考察する力や時代の特徴を的確に把握する力、**事例 2**では歴史的事象を歴史的文脈の中で理解する力や歴史的事象の意義について考察する力、**事例 3**では歴史を原因と結果のつながりとして捉え、歴史的事象を歴史的文脈の中で理解する力を付けさせたいと考え、それぞれ一定の成果をあげることができたと考えている。また、当初に期待した、歴史への興味・関心が高まり、歴史に対する理解がより深まるといった成果もみられた。各学校において、本研究の実践を、生徒の実態に合わせて活用していただければ幸いである。その際、以下に示すような指導の工夫をお願いしたい。

### 1 継続的・反復的な課題追究学習の取り組み

歴史的思考力は、一朝一夕に身に付くものではない。繰り返し取り組むことで、次第に身に付くものであるから、継続的・反復的指導を、年間の指導計画に位置付けることが必要である。本研究のいずれの実践においても、生徒は、考えたり表現したりすることに、次第にスムーズに取り組むことができるようになった。そして、それぞれの実践でねらいとした歴史的思考力を身に付けることが、ある程度できた。また、反復して行うことで、教師も指導に習熟し、より効率的かつ効果的に課題追究学習を実践することができると考えられる。

### 2 日常の授業の中で課題追究学習に取り組む工夫

日常的に課題追究学習を行うために、教師にとってもなるべく負担にならず、取り組みやすい教材の開発が必要である。本研究では、基本的に1時間、多くても3時間でできる授業実践を考えた。適切な課題を設定し、生徒に考えさせたり話し合わせたりする学習は、50分授業の中の15分であっても、生徒の思考力を高めるだけでなく、知識・理解を確実にするために有効である。なお、課題追究学習を実施する際は、生徒の学習の様子を見極め、教師の指導方法や指導内容に常にフィードバックし、改善を加えていくことが重要である。

### 3 生徒の主体的な歴史学習を促す工夫

課題追究学習において、生徒は、自ら考えたり表現したり、あるいは間違えたりすることによって、思考力が高まるだけでなく、知識・理解が確実に定着することを感じていた。課題追究学習の成果を生徒に実感させることが、生徒の歴史学習への主体的・意欲的な取組につながると考えられる。

**事例 1**では、生徒は、新しい視点に気付いたり、歴史に対する見方・考え方を広げたりすることができた。歴史を学ぶことが、現在の日本や世界を理解し未来を考えることにもつながることを、生徒に気付かせる工夫をお願いしたい。歴史を学ぶ意義を実感することで、生徒の主体的な学習が一層促されるものと考えている。

### 4 生徒の学び合いを促すグループ学習の形態の工夫

本研究では、個人単位で生徒一人一人に考えさせる学習形態をとることが多かったが、ワークショップ型などのグループでの学習形態を取り入れることで、生徒同士の「学び合い」が生まれ、一層学習効果が高まることが期待できる。今後は、付箋等を使って気付いたことや考えたことを出し合って類型化したり、意志決定したりするような、作業を取り入れたグループ学習に取り組むことも検討する必要がある。本研究においても取り組むべき課題のひとつであると考えている。